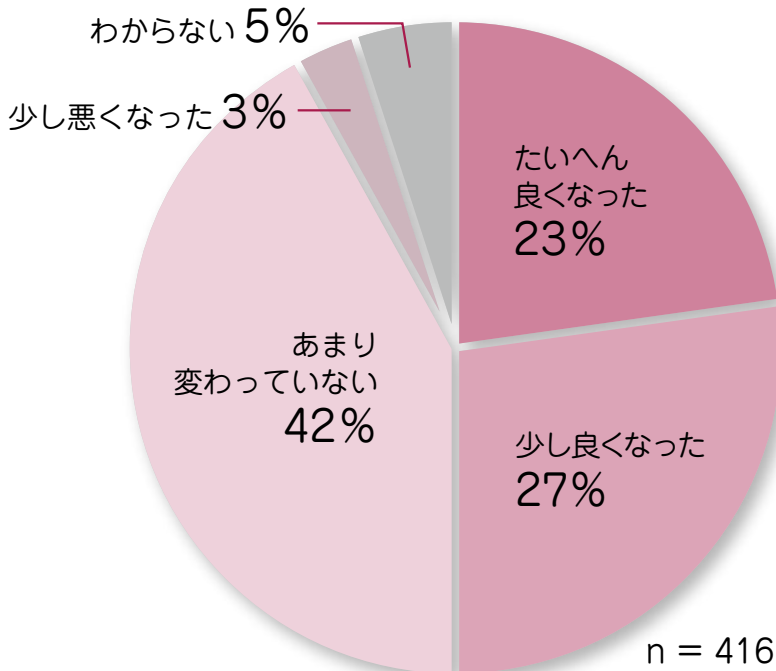


糖尿病患者さんに聞きました

Q. あなたが糖尿病の治療を始められた時と現在を比べて、受けられている医療は良くなりましたか？



糖尿病医療の進歩について患者さんの全体的な印象は、「たいへん良くなった」と「少し良くなった」でちょうど5割。単独で最も多かった選択肢は「あまり変わっていない」の42%。医療スタッフの回答とはだいぶ趣きの異なる結果でした。

このような差が生じた理由は推測するしかありません。しかし考えてみれば、糖尿

病の治療の基本が食事・運動療法であることは昔も今も変わりはなく、とすると前述のように医療スタッフも栄養・運動指導に関してはそれほど変化していないと感じていることから、患者さんが進歩をあまり感じないのも不思議ではないかもしれません。

また、次々に登場した新規薬剤のおかげで患者全体の血糖管理は向上しています

が、個々の患者さんにしてみれば自覚症状が変化したわけではないでしょうし、加齢によって合併症・併発症が出てきた方もいるでしょう。さらに、治療そのものは毎日欠かさずに続けていかなければならない以上、「変化」を「進歩」として実感しにくいのかもかもしれません。

なお、糖尿病罹病期間別にみると、「たいへん良くなった」が最も多く選択されたのは罹病期間30年以上の患者さんのみで(64人中32人。50%)、同20~29年では「あまり変わっていない」が最多でした(81人中27人。33%)。この差から、ペン型注射器の登場やSMBG保険適用、あるいはインスリン自己注射認可といった30年以上前に起きた変化が、患者さんにとって極めて大きな進歩であったと言えそうです。

その他、医療スタッフとの関わりやすさについては「あまり変わっていない」が53%、医療費の負担感は「あまり変わっていない」39%、糖尿病による仕事や家業・学業への負担感は「あまり変わっていない」60%とそれぞれのトップを占め、これらもあまり大きな変化としては受け取られていないようです。

医療スタッフの記述回答

【全体的な進歩】定期的に糖尿病手帳を持って来院される方が増えた／インターネットなどで情報が得られるようになり、合併症や治療法など患者さん自身が自宅でも学べるようになった／医療従事者の知識の向上が大幅に進んだ
 【薬剤の進歩】鍵となる薬剤(持効型インスリン、DPP-4阻害薬、メトホルミンの再評価)の開発があった／ブドウ糖をほしがる患者さんが以前に比べて少なくなった
 【栄養指導の進歩】カーボカウントの普及／緩やかな糖質制限は食品交換表よりわかりやすく患者さんが受け入れやすい／野菜を先に食べるなどが一般的になった／血糖値を上げにくくする食品が多く市場に出回り、料理できない人でも食事療法をやりやすくなった／病院等が栄養指導を引き受けてくれるようになった／市販の物にカロリーや塩分など記載してある物が多い
 【運動指導の進歩】運動療法の効果を実証され、勧めやすくなった／運動するタイミングや強度など示された媒体が増えた
 【SMBGの進歩】かつてとは比較にならないほど、血糖測定が簡単になった／バンフレットが充実し、またインターネットで動画も見られるようになった
 【変化がないこと／後退したこと】糖尿病気質というか、まだ合併症は他人事であられる患者さんが多い／相変わらず薬剤費等に比べ食事療法や運動療法の指導は手間に見合った経済的バックアップがないため普及に支障がある／栄養士の指導内容があまり変わっていないように思う／健康関連のテレビで極端な方法が出たりすると、そういう方法に引っ張られてしまう方が多い／お菓子を食事のように食べる人が増えた。自己主張ばかりで努力しない人間が増えた／圧倒的に遅れているIoTをなんとかしないと
 【その他の自由記述】糖尿病患者さんは増加しているが悲観的にとらえるのではなく、生活の中に糖尿病があるという考えを持ってもらえるよう関わっていきたい／患者さんのQOLを落とさないように働きかけをしていきたい／糖尿病は単に一つの病気ではなく、インスリン抵抗性などを通してあらゆる疾患と関連しているという疾患概念の変化が大変大きい。薬の種類も増え血糖管理はしやすくなった一方で、社会の変化はほとんど糖尿病を増やす環境を作っており、生活指導を含めて相変わらず難しい／せっかくのCDE、糖尿病認定看護師などの有資格者、専門職者を地域でもっと活用してほしい

患者さんの記述回答

【全体的な進歩】インスリンの種類も増え、ポンプ治療、カーボカウントなど昔と比べ治療法が多様になった／CSIIやSAPにはびっくりした／医師と話し合う時間が増えた／かつての通院先は医療スタッフの知識があまりにもなく信頼できなかった。そういう時代だったと思う／仕事での低血糖を心配する頻度が格段に少なくなった。会社を何度か変わったが、病気を問題視されることもいつからかなくなった
 【薬物療法の進歩】インスリン注射が進歩した。ガラスの注射器を煮沸消毒して使っていた／教育内容にさほど変化はないと思うが、薬関係の進歩がすごい／低血糖にかなり重点が置かれ始めた／ジェネリック医薬品が増えて自己負担が安くなった
 【食事療法の進歩】以前は一方的に交換表による食事療法を迫られ数値が悪化すると怒られていた。今はスタッフのチームで支えていただけて数値も良化している／カーボカウントで血糖コントロールが可能になった／糖質制限が市民権を得てきた／糖質オフの食品などが簡単に入手できるようになった／特保の食品の増加／食品の栄養成分表示が当たり前確認でき、人工甘味料も普及し、外食の糖質量表示も増えた／宅配食でカロリーの調整されたものが出てきた
 【運動療法の進歩】YouTubeなどでも簡単な運動を見ることができて便利になった
 【SMBGの進歩】30年前と比較ならなくらい良くなった／定期通院のときにグラフ化して見せてくれるのでわかりやすい／スマホへの自動送信など記録が容易になった
 【変化がないこと／後退したこと】医療機関・医師の意識が「糖尿病患者は怠け者」「食事に無頓着」というところが全く変わっていない／採血して数値を確認するだけで何も変わらない／薬が変わったが血糖値にはあまり変化がない／「食事に気をつけてください。運動してください」ばかり／運動療法は専門医といえども十分指導してくれる医師が少ない／飲み薬は副作用が多すぎる／新しいデバイスに変わるたびに医療費が増加する
 【その他の自由記述】医師と患者との対話がスムーズに取れるようになった／医療は良くなったと思うが、体は思うようにはいかない／必要などときには心の支え、カウンセリング(?)が受けられるようになってほしい／医療の進歩に関わらず自己管理、我慢をすることに変わりはない／医療進歩には驚かされるばかり。しかし元の体(30年前)に戻りたい／医学の進歩は素晴らしいと思うが医療従事者への知識の浸透を願う